

氏名	沖中 由美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	博士（看護学）
学位授与番号	博甲第5176号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	在宅介護における高齢者夫婦の「生きる希望」に関連する要因 ～妻が夫を介護する夫婦と夫が妻を介護する夫婦における分析～
論文審査委員	岡本 玲子 教授、森本 美智子 教授、近藤 真紀子 准教授

学位論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、在宅介護において、高齢者夫婦がともに「生きる希望」をもつことに関連する要因を明らかにすることである。

【方法】

妻が夫を介護する夫婦110組と夫が妻を介護する夫婦58組を対象に質問紙調査を実施し、「生きる希望や目的がある」を従属変数とするロジスティック回帰分析を行った。

【結果】

妻が夫を介護している夫婦がともに「生きる希望」をもつことに関連していたのは、夫と妻ともに「抑うつ傾向がないこと」、夫が「いま、自分にできる限りの力を尽くしていること」であった。夫が妻を介護している夫婦では、夫が「75歳以上」「体の痛みにより普段の生活が妨げられないこと」、妻に「抑うつ傾向がないこと」であった。

【結論】

妻が夫を介護する夫婦では、夫婦ともにうつの発症と進行を予防し、夫の自己肯定感を高める支援が必要であり、夫が妻を介護する夫婦では、夫の身体症状を管理し、妻のうつの発症と進行を予防する支援が必要である。

日本看護研究学会雑誌 37(4) 45-53 2014

キーワード：生きる希望、高齢者夫婦、在宅介護

論文審査結果の要旨

本研究は、在宅介護において高齢者夫婦がともに「生きる希望」を持つことに関連する要因を明らかにしたものである。先行研究で明らかにした在宅で老いを生きる自己意識や、在宅介護における高齢者夫婦のかかわり合いから見た老いの生き方の成果に積み上げる形で研究している点が評価できる。

課題としては、生きる希望の関連要因選定の意図や過程が十分説明されていないこと、またロジスティック回帰分析で得られた結果について、オッズ比の解釈が不十分であることなどが挙げられる。また、試験時の発表においては、生きる希望の概念についての説明があったが、論文上では不十分であった点も課題として残る。

ただし、さまざまな限界がある中で、夫婦単位での調査を行い結果を導いた点はオリジナリティがあり評価できる。今後のさらなる研究活動に期待したい。

本論文は、博士号を授与する一定の水準に達していると評価する。